

## ホイール専用コーティング剤

# G.Guard Pro 取り扱い説明書

この度は、G.Guard をお買い上げいただきありがとうございます。  
とうございます。

ご使用前にこの説明書を良くお読みのうえ、正しい手順で施工を行ってください。誤った手順で本製品を施工されますと本来の効果が発揮出来ない場合がありますので十分ご注意ください。

- ◆ホイール表面にブレーキダストや鉄粉が付着したまま施工されますととれなくなります。
- ◆ホイールに油が付着していますと本製品が上手く密着しません、油分は完全に除去してください。特にエアバルブ周りは、グリス等の油が出てシミになる可能性がありますので洗浄は入念に行ってください。
- ◆炎天下、直射日光のあたる場所でのご使用。又、走行後のホイールが過熱した状態でのご使用はお避けください。
- ◆取扱い作業場所は換気の良い所で、火気に十分注意して取り扱ってください。
- ◆G.Guard が施工部分以外に付着した場合は、速やかに拭きとってください。標準硬化しますと塗膜を除去できません、ご使用場所には十分ご注意ください。
- ◆ホイールの表面加工の種類によっては施工が難しい場合があります。
- ◆乳幼児の手の届くところに置かないでください。
- ◆皮膚に付着した場合は、石鹸で洗ってください。
- ◆万一目に入った場合は直ちに十分な水で洗って、医師の診断を受けてください。

### 【製品特徴】

G.Guard は、ホイールに塗る事でシリカガラス(SiO<sub>2</sub>)という非常に薄いガラス膜を作るホイール専用コート剤です。このガラス膜は紫外線に強く超耐久性を発揮するとともに、約700℃程度までの熱に耐えられ、不燃性、耐酸性、耐透水性、耐汚染性、防錆性に優れています。塗膜は非常に薄い膜厚です。ホイールは過酷な条件下にあり、ブレーキダストをはじめ様々な汚れが付きやすい物です。G.Guard を施工しますと、ホイール表面に薄いガラス膜を形成し、頑固なブレーキダストなどの汚れが付き難くなります。また、錆を防ぎ、汚れが簡単に落ちるようになります。

### 【パッケージ内容】

- ◆G.Guard-I ◆G.Guard-II ◆取り扱い説明書

### 【対応材質】

- ◆鉄・アルミニウム・ステンレス

《注意》メッキホイールや表面を磨いて鏡面処理してあるホイールには施工出来ません。

### 【塗膜硬化時間】

- 指触乾燥(気温20度) 2~3時間
- 標準硬化(0H~2H) 24時間
- 完全硬化6日以上(4H~9H:基材により異なります。)

### 【塗膜性能の発現について】

- 不燃性造膜 40時間前後
- 耐溶剤性造膜 4~6日
- 耐水性造膜 24時間前後  
(膜圧や環境により異なります)

### 【保管について】

- ※未開封状態で冷蔵庫で約3ヶ月保存出来ます。(G.Guard-IIが白濁していれば不可)
- ※混合後は、出来るだけ早くご使用ください。(3日以内)

### 【成分表示】

- ◆G.Guard-I シラン・メタノール・変性シリコン・IPA・その他
- ◆G.Guard-II チタン誘導体・アルコール類・その他

### 【別売品】

- ◆塗り込みクロス ◆拭き上げクロス
- ◆下地処理剤-A ◆下地処理剤-B ◆IPA
- ◆洗車スポンジ ◆マイクロファイバークロス
- ◆鉄粉取り粘土 ◆施工用手袋 ◆その他

## 【施工方法】

### 1：施工前準備

- ◆施工前に次のものを出来るだけ準備してください
  - ※塗り込みクロス (G.Guard をホイールに塗り込む時に使  
用します)
  - ※拭き上げクロス (塗り斑を無くすために使用します)
  - ※下地処理剤-A (酸性)
  - ※下地処理剤-B (下地処理剤-Aの中和と、油分の除去  
に使用します)
  - ※IPA (油分の除去に使用します)
  - ※4  $\mu$ m ~ 5  $\mu$ m の赤外線ヒータ (硬化時間が早くなりま  
す)
  - ※施工用手袋

《注意》塗り込みクロス・下地処理剤-A・下地処理剤-B  
は、当社指定の物をご使用ください。

- ◆施工中は手あれ防止の為、必ずビニール手袋を着用して下  
さい。ビニール手袋着用の上に軍手を着けますと、やぶれ  
防止になります。
- ◆下地処理剤-A、下地処理剤-Bをご使用される場合は、  
出来るだけマスクを着用してください。
- ◆施工は通気性の良い日陰で行ってください。
- ◆G.Guard Pro は2液制です。  
施工前に G.Guard-I の容器に G.Guard-II を入れて、よ  
く混合してください。

### 2：下地処理-1 [新しいホイールも]

下地処理剤-A を使ってホイールに付着している汚れを除去  
してください。こびり付いたダストや鉄粉は、鉄粉取り粘土  
をご使用されますと落ちやすくなります。鉄粉取り粘土を使  
用した場合は、ホイールに付いた粘土を除去するため再度下  
地処理剤-A で洗浄してください。良く水をかけ『下地処理  
剤-A』を残さぬよう洗い流します。

アルミホイールの腐食している部分は、**下地処理剤-A**を用  
いても腐食は落ちません。

《注意》下地処理剤-Aが施工面に残っていると3で使用  
する『下地処理剤-B』と化学反応を起こし有毒ガスが発生  
する場合があります。

### 3：下地処理-2

水洗い後は濡れたままの状態の下地処理剤-Bを満遍なく  
吹付け、**スポンジ**や**柔らかいブラシ**等で油分を除去します。  
**油分を完全に除去するため数回くりかえし、良く水をかけ**  
『下地処理剤-B』を残さぬよう洗い流します。

### 4：乾燥

G.Guard は水分を嫌いますので、完全に乾燥させてから施工  
して下さい。水分が残っているとコート剤がうまくのりま  
せん。ブローする事を推奨します。

### 5：脱脂

IPAを使ってホイール表面に残った油分を除去してくだ  
さい。

### 6：塗り込み

塗り込みクロスに G.Guard (混合済み) を適量含ませ塗り  
込みます。塗り込み後すぐに塗り残しとムラを無くすため、  
塗りこんだ G.Guard を同じクロスで延ばします。  
(この時 G.Guard をクロスに含ませる必要はありません)

《注意》リムとスポークの結合部分や、Rのきつい部分は塗  
り込みが甘くなりがちですので、特に念入りに塗り込みま  
す。塗り込みを雑にされますと G.Guard の効果が発揮され  
ません。また G.Guard を厚く塗る必要はありません、厚く  
塗るとムラや硬化時間が遅くなります。

### 7：拭き上げ

ムラが気になるようであれば塗り込み後、直ぐに拭き上げク  
ロスにて塗りこんだ部分を均一に塗り延ばしてください。  
時間を置いての拭き上げや、作業を雑にしまいますとムラ  
になりやすいので十分注意してください。

《注意》ムラが気にならなければ必要ありません。  
拭き上げをしない方が G.Guard の効果が有ります。

### 8：ガラス化

常温で硬化させる場合、施工後2~3時間は指などで施工面  
に触れないでください。施工後24時間以内は雨・水を当て  
ない様に注意してください。波長が4  $\mu$ m ~ 5  $\mu$ m の赤外線  
ヒータを使用されますと硬化時間が早くなります

《注意》G.Guard は空気中の水分と反応してシリカガラスに  
なります。水には十分注意してください。

### 【施工後のお手入れ】

洗浄は柔らかいスポンジかクロスを使って水洗いをしてく  
ださい。汚れが気になるようであれば洗車専用シャンプーか、  
ホイールクリーナを使用してください。

《注意》ホイールクリーナを使用された場合は、ホイール表  
面にクリーナを残さぬよう良く洗い流してください。

発売元 有限会社 ワンダーテック

<http://www.wondertec.co.jp/>  
E-mail : [sales@wondertec.co.jp](mailto:sales@wondertec.co.jp)

Ver.1.1